

Vascular Street Journal


 特集

福岡大学医学部 臨床検査医学 小川正浩先生主任教授就任



左：三浦教授 右：小川教授



左：甲斐師長 右：小川教授



小川教授を囲んで

2021 年 4 月 5 日 小川正浩 主任教授就任記念撮影会にて

ご挨拶

令和3年4月1日付で、福岡大学医学部臨床検査医学講座主任教授、及び福岡大学病院臨床検査部診療部長を拝命いたしました。1991年福岡大学医学部を卒業後、福岡大学医学部内科第二に入局し、荒川規矩男教授、朔啓二郎教授、そして三浦伸一郎教授のもと循環器学、ことに不整脈学・心臓電気生理学の臨床・研究・教育に努め、これまで御指導いただいた多くの先輩の先生方、同輩・後輩の先生方の御協力や叱咤激励のおかげで何とか歩んでまいりました。私は実地診療を主とし、研究に関しては、臨床から得られた疑問や課題をテーマとした研究をするといった姿勢で日々精進しております。



主任教授 小川正浩



国立循環器病センター 心臓血管内科病棟で
下村院長、鎌倉部長と不整脈（下村）グループの
若手医師ら（当時）と共に



シーダス・サイナイ医療センター
Swan-Ganz カテーテルで有名な Ganz 先生と
ボスの Peng-Sheng Chen 先生と共に

その間に国立循環器病センター、シーダス・サイナイ医療センターやインディアナ大学など内外の施設での臨床修練や研究する機会を得られたことは私にとって大きな財産になりました。不整脈診療は、心電図判読解析からカテーテルアブレーション、ペースメーカー、植込み型除細動器や心臓再同期治療などの診断から治療、また外来診療から入院を要す高度先進医療まで多岐にわたり、実に知識、経験や技術を必要とします。高齢化、心不全パンデミックの時代と相まって、心房細動、心室頻拍・細動、徐脈性不整脈など生活の質や生命予後に関わる多種多様の不整脈が増加しているため、おのずと診療ニーズは増加しています。今まで不整脈学の本質に少しでも近づきたいと思い、自分なりに努力してきたつもりですが、まだまだ満足するには程遠く、いつもその深遠さを思い知らされます。私自身の向上する努力を継続することはもとより、これからの若い医師と共に学び、彼ら彼女らを育成することで、不整脈診療の発展の一助になりたいと強く感じています。

この度、縁あってこの臨床検査医学講座を主宰させていただくことになりました。検体検査など不慣れな点がありますが、これまでの経験を生かし循環生理検査

部門の診療と研究の充実をはかること、関連した新たな治療的アプローチの研究開発に寄与することに努めます。また中央検査部門としてほとんどすべての診療科に関わりますが、できるだけ多くの診療ニーズに対応できるような検査体制の構築に取り組みます。喫緊の問題として、コロナ禍におけるPCR検査など検体検査体制の整備し維持していくことは病院や社会全体の問題ですが、常に変化に対応できるよう努力し、コロナ後時代に向けてのデジタル化や人工知能などその時代に相しい変化や進化ができるよう努めます。こうした大小の様々な課題や問題は日常的にあるわけですが、基本として既成概念にとらわれすぎない、変わることを恐れないなど、自分なりの信念をもって新しい「RINKEN」作りに挑戦していきます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

福岡大学 医学部 臨床検査医学講座
主任教授 小川正浩



教授就任おめでとう

小川正浩先生、福岡大学医学部臨床検査医学講座 - 主任教授ご就任おめでとうございます。本来ならば、大々的な就任祝賀会を開くところ、コロナ禍でそうもいきません。しかし、うれしい限りです。私が心臓・血管内科学の教授就任後この21年間に、多くの医局員・大学院卒業生が教授になりましたが、小川先生が23番目の教授誕生です。今回の臨床検査医学講座の教授選考においても、ぶっちぎりのトップ当選、小川君の不整脈診療・非薬物(アブレーション)治療、基礎的研究力と論文業績が正当に評価されたと考えます。医学部正教授会に感謝いたします。臨床検査医学講座は、広木教授の時代は循環生理系、小野順子教授は糖尿病、松永教授は循環生理化学でしたので、小川君の専門を活かせる分野だと確信しています。循環器(不整脈)診療は継続され、心臓・血管内科学と循環器内科との連携が重要なキーになると考えます。激務ですが、くれぐれもご自愛されますよう。これまで以上に、研究と学位指導に邁進できる環境が与えられたと考えます。右の写真は、学長室で昨年6月に撮ったものですが、教授選に出馬を決めた時の写真ですが、いい顔してますね。小川君の今を現していると考えます。

福岡大学長 朔 啓二郎



学長室にて

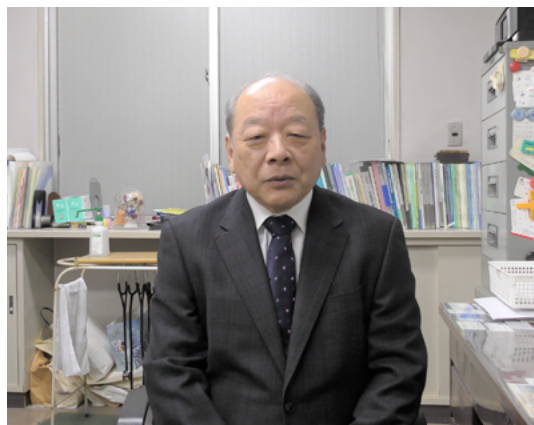
左：朔学長 右：小川教授

小川先生 教授就任おめでとうございます

小川先生、教授就任おめでとうございます。

松永先生のあと第二内科同門会の小川先生が臨床検査部教授に就任され、同門会会長として大変うれしく思っています。大学の医学部には、教育・臨床・研究の三本柱があります。新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、この三本柱が大きく変化しています。

医学部での、主に診療に対する問題でも想定外の事態が頻発しています。学生教育の現場では、コロナ以前とは全く変わっています。まして病院臨床検査部となれば各科診療医師、検査技師、放射線技師、看護師、事務職



員など、いわゆる多職種連携が重要になってくると考えられます。また、今まであまり顧みられなかったウイルス感染症対策の構築も必要になります。特に無症状で入院した救急患者さんの対応は院内クラスター発生予防に重要となり、それに伴って病棟の管理体制も考慮しなければなりません。未知の感染症の救急患者が増加すれば、緊急の検査を含め、病院職員全体の仕事量も増加し、職員の働き方改革にも対応が必要となってきます。問題は山積みですが、小川先生ならばこの難局を乗り切っていかれると考えます。小川先生の今後のご活躍を期待します。

2021年4月5日 小川正浩 主任教授記念撮影会にて
権藤同門会長よりビデオレター

第二内科同門会 会長 権藤 公和



祝 小川正浩先生が福岡大学医学部臨床検査医学講座主任教授にご就任

2021年4月1日より小川正浩先生が臨床検査医学講座主任教授に就任され、誠に喜ばしくお祝い申し上げます。不整脈診療に対する先生の日頃の熱意とご努力、卓越した実績の賜物であると思います。

小川先生は、アメリカ留学時に多くの卓越した論文を発表され、帰国後は、循環器内科医として不整脈を中心として循環器診療へ従事され、特に、カテーテルアブレーションでは、症例数を200例ほどまでに増加していただき、循環器内科診療へ大いに貢献されました。また、私が教授に就任してからの最初の2年間は、准教授という多忙な職務と、医局長として医局をまとめていただき感謝しております。私が教授として、滞りなく講座を軌道に乗せることができましたのも先生のご尽力のおかげだと思っております。また、福岡大学の3つの病院には、循環器内科がありますが、専門的な不整脈診療が確立してまゐるのは福岡大学病院のみです。筑紫病院や西新病院でも大学病院として不整脈診療を実施しなければなりません。今後は、臨床検査医学講座の運営で忙しくなるとは思いますが、これまでと同様に循環器内科へお力をお貸しいただければ幸いです。

小川先生の主任教授ご就任は、心臓・血管内科学講座としても力となり、後輩医局員の目標ともなります。これから当科も、益々診療・研究・教育に力を合わせて精進して参りたいと思っております。この上は、ご自愛いただき、更なるご活躍と福岡大学医学部・病院の発展にご尽力されますことを心よりお祈りいたします。

福岡大学 医学部 心臓・血管内科学講座
主任教授 三浦 伸一郎

福岡大学病院 臨床検査部 小川教授ご就任祝い

小川先生、この度は、福岡大学病院 臨床検査部教授へのご就任おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

小川教授は私が福岡大学医学部内科学第二(現 心臓・血管内科学)に入局した当時、既に畏敬する大先輩でした。研修医河村から見た小川先輩には、常々非常にクールなイメージがあったのですが、とある日の夕方、小川先輩が当直、私が副直をしていたところ、私が担当する重症患者が突然、心室細動に陥りました。モニターを見た小川先輩は誰よりも早く駆けだして患者のベッドに飛び乗り、胸骨圧迫を開始し、次々と指示を出されました。そのおかげで患者は事なきを得たのですが、何か小川先輩の熱い一面を垣間見た気がして、不謹慎ながら研修医河村は、少し嬉しかったことを覚えています。

福岡大学病院の不整脈診断および治療における小川教授の貢献は、これまでの実績はもちろんのこと、今後へ向けての期待度の高さも極めて高いものである事は異論のないところであると思います。また、特に電気生理学的検査、カテーテル・アブレーションを通じた生理検査への造詣の深さには、いつも感心と尊敬を覚えております。この度の小川教授のご就任は、臨床検査部の発展に直接的な好影響をもたらすものであると同時に、福岡大学医学部の学生教育、福岡大学病院の研修医教育への好影響も計り知れません。今後の小川教授と福岡大学病院臨床検査部の発展に期待が膨らむばかりです。

さて、私が勤務しております、福岡大学筑紫病院の医療圏である筑紫地区はアブレーション無医村地区であります。その一方で心房細動を始めとした不整脈の症例は数多く存在します。これまでもアブレーションが必要な症例は小川教授にお願いしておりましたが、今後、益々その機会が増えていく事が予想されます。教授に就任されて、今後益々ご多忙となることは存じますが、臨床、研究、教育全てにおいて、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。重ねてお祝い申し上げます。この度はおめでとうございます。

福岡大学筑紫病院 循環器内科
教授 河村 彰